

江木地域ビジョン

令和3(2021)年1月

江木自治区

(広島県三原市久井町江木)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1	地域ビジョン策定の目的	1
2	地域ビジョンの役割	1
3	地域ビジョン策定の取組	1
1章	地区の概要	2
1	位置	2
2	人口・世帯数	3
3	地区活動の状況	4
2章	地区の魅力・資源と問題点・課題	6
1	地区の魅力・資源	6
2	地区の問題点・課題	7
3章	地域ビジョン	8
1	地区の将来像	8
2	地区づくりの目標設定	8
3	地区づくりの体系	10
4	地区づくりの基本計画	11
5	計画の推進体制	18

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

江木地区は、かつて日本三大牛馬市の一つとして栄えた場所であるとともに、久井稻生神社の祭礼の時には多くの参拝客があります。また、こうした歴史豊かな本地区は、久井地域の医療・商業の中心としての役割を果たしてきました。しかしながら、若年層を中心に人口が流出するなど、高齢化・少子化が進行し、地区活動の担い手不足、公共公益施設の減少、地区の基幹産業である商業及び農業の低迷などにより、以前の賑わいが失われてきています。

こうした状況において、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、江木自治区では、平成27(2015)年3月に策定した「江木地区活性化計画」とその後の取組を踏まえて、新たに「江木地域ビジョン」の策定に取り組みました。

2 地域ビジョンの役割

「江木地域ビジョン」は、江木自治区が住民や各種団体などに取り組むことを総合的に示したもので、地区において地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、地区出身者、都市住民、大学など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 地域ビジョン策定の取組

江木自治区では、各種団体の代表者などで構成する「江木地域ビジョン策定会議」を開催し、「江木地域ビジョン」の策定に取り組みました。

計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、全住民を対象とした江木地域ビジョン策定ワークショップ（意見交換会）を開催しました。

1章 地区の概要

1 位置

本地区は、三原市久井地域の北部中央に位置しています。

地区中心部（久井の市コミュニティホーム）から主要な場所まで車を利用するの所要時間は、久井支所まで約10分、三原市役所まで約40分、スーパーや病院のある世羅町中心部まで約10分です。

また、山陽自動車道三原久井インターチェンジまで約15分、広島空港まで約30分です。

図 江木地区の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を住民基本台帳で見ると、令和2(2020)年で708人になっており、過去5年間で約12%減少しています。

年齢3区分別人口をみると、令和2(2020)年で0～14歳51人、15～64歳323人、65歳以上334人で、高齢化率は約47%になっています。

年齢3区分別人口の推移をみると、過去5年間で各年齢層ともに減少しています。

表 人口の推移

(単位：人，%)

区 分		実 数			増減数	
		H22 (2010)年	H27 (2015)年	R 2 (2020)年	H27(2015)－ H22(2010)	R 2(2020)－ H27(2015)
実 数	0～14歳	91	66	51	△25	△15
	15～64歳	407	385	323	△22	△62
	65歳以上	380	358	334	△22	△24
	合 計	878	809	708	△69	△101
割 合	0～14歳	10.4	8.2	7.2	－	－
	15～64歳	46.3	47.5	45.6	－	－
	65歳以上	43.3	44.3	47.2	－	－

注：人口は、住民基本台帳（各年3月末現在）。H22(2010)年人口は外国人登録人口を含みません。

(2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を住民基本台帳で見ると、令和2(2020)年で360世帯になっており、過去5年間で26世帯減少しています。

1世帯当たり世帯人員は令和2(2020)年で1.97人になっており、過去5年間で0.13人減少しています。

表 世帯数等の推移

区 分	実 数			増減数	
	H22 (2010)年	H27 (2015)年	R 2 (2020)年	H27(2015)－ H22(2010)	R 2(2020)－ H27(2015)
世帯数(世帯)	399	386	360	△13	△26
世帯人員(人)	2.20	2.10	1.97	△0.10	△0.13

注：世帯数は、住民基本台帳（各年3月末現在）。H22(2010)年世帯数は外国人登録世帯数を含みません。

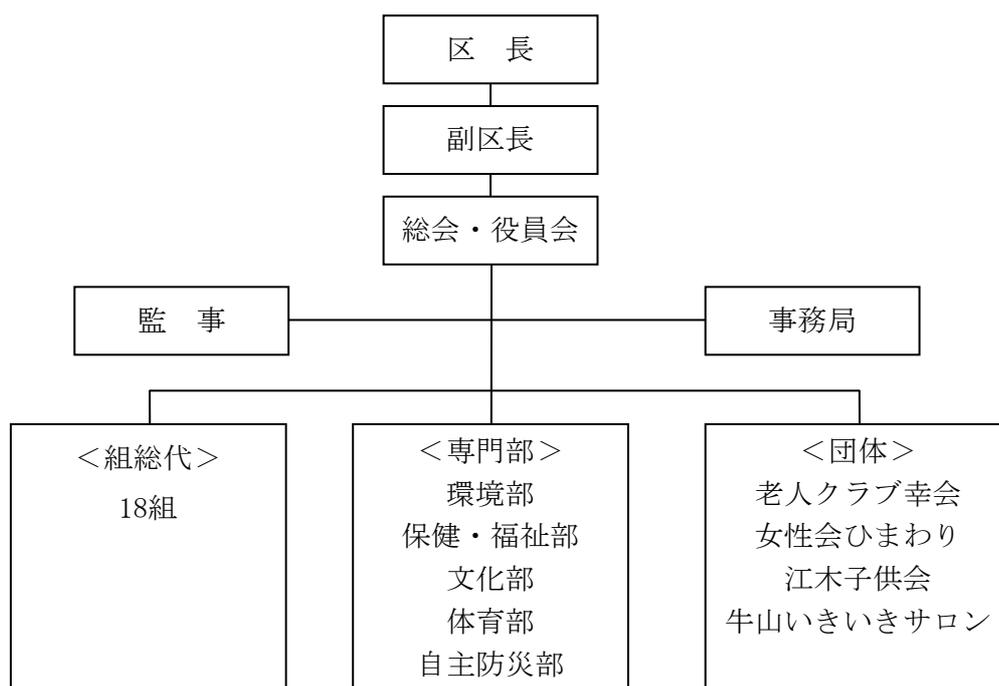
3 地区活動の状況

(1) 自治区などの団体

ア 江木自治区

江木自治区は、1～20（16と19が欠番）の18組で構成されており、組総代を通じて情報伝達を行っています。また、専門部を設置して各種事業に取り組むとともに、各種団体と連携して活動を行っています。

図 江木自治区の組織



イ その他の団体

江木自治区以外の主な団体とその活動状況は次のとおりです。

表 その他団体の活動状況

団体名	主な活動
老人クラブ幸会	・研修会（コロナ，交通指導等）の開催，リサイクル回収，親睦活動等
女性会ひまわり	・研修会の開催，焼き肉タレ作り，手芸，生け花講習会の開催，会館清掃
ふれあい貯筋教室	・貯筋体操，福祉活動の取組
江木子供会	・ホタルの学習，とんど祭りの開催
牛山いきいきサロン	・会員の誕生会，クリスマス会，その他イベントの開催，リサイクル回収，親睦旅行
久井地区社会福祉協議会	・長寿祝賀会の開催，弁当配食（一人暮らしの高齢者）の実施
自主防災会	・自主防災対策の協議，防災意識啓発，防災訓練の実施等
消防団	・出初式，消防訓練の実施，火災予防広報活動等

(2) 主な地区行事

本地区の主な行事は、次のとおりです。

表 主な地区行事

月	行事・祭り	内 容
4月	春祭り（良神社）	・神事，浦安の舞奉納，江木地区御當座開催，参拝者にプレゼント
5月	久井町ソフトボール大会	・久井町全体の大会，健康増進及び親睦
6月	ホタル学習	・子どものホタル学習（ホタルの観賞，学習，イベント開催等）
	牛山草刈り	・公園の草刈り
7月	祇園祭（久井稲生神社）	・伝統行事の継承，江木地区としても参加して祭りの盛り上げ
8月	夏祭り・子ども相撲（江木広場）	・住民及び帰省客との交流，親睦
	大仙祭り（牛山）	・伝統行事の継承
9月	長寿祝賀会	・久井地区社会福祉協議会主催の敬老行事
	牛山草刈り	・地区の公園の草刈り
10月	御當座（久井稲生神社）	・伝統行事の継承
	三原市民体育大会	・三原市全体の大会，健康増進及び親睦
	久井さわやか高原祭り	・久井町全体の祭り，芸能を含むイベント
11月	秋祭り（良神社）	・神事，浦安の舞奉納
	防災訓練	・住民の防災意識の高揚と実践訓練
	久井町ビーチバレーボール大会	・久井町全体の大会，健康増進及び親睦
1月	ホタル学習	・子どものホタル学習（地区内の河川にホタルの幼虫の放流，観察等）
2月	裸祭り（久井稲生神社）	・おもてなしイベントの開催，裸祭りにも参加
3月	ウォーキング大会（久井コミュニティセンター）	・久井町内にコースを設定し，地元の風景を感じ取りながらウォーキング，健康増進及び親睦
	久井町グラウンド・ゴルフ大会	・久井町全体の大会，健康増進及び親睦

(3) これまでの取組

江木自治区では、「江木地区活性化計画」に基づいて平成27(2015)～令和元(2019)年度の5年間に次のような事業に取り組みました。

- ・生活支援組織「まかせんさい」の設立・運営
- ・高齢者サロン活動などの支援，ウォーキング大会の開催
- ・U I ターン呼び込み歓迎会の開催
- ・座禅体験事業の開催
- ・祇園祭りへの参加，裸祭りへの協賛
- ・夏祭りの開催
- ・環境美化活動
- ・自主防災活動（先進地視察，防災研修会の開催，防災備品の購入，防災訓練の実施）
- ・地区内外への情報発信体制の整備（フェイスブックの運営，情報掲示板の設置等）

2章 地区の魅力・資源と問題点・課題

1 地区の魅力・資源

江木地区の魅力・資源について、「江木地区活性化計画」の内容に江木地域ビジョン策定会議及びワークショップ（意見交換会）での意見を加えて整理すると、次のとおりです。

表 地区の魅力・資源

区 分	地区の魅力・資源
自然資源	<ul style="list-style-type: none">・ ホテル・ 自然災害が少ない環境
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none">・ 久井稲生神社・ 久井稲生神社の祭り（県内唯一の裸祭り，祇園祭，御当座）・ 久井稲生神社の夜景（ライトアップ）・ 日本三大牛馬市の歴史・史跡・ 久井牛山自然公園・ 良神社・ 瑞泉寺・ 石畳
産業資源	<ul style="list-style-type: none">・ 商店街，空き店舗・ 農地が比較的多い
地区活動	<ul style="list-style-type: none">・ 見守り，「まかせんさい」，高齢者サロン・貯筋教室の活動・ 各種地区行事
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 久井の市コミュニティホーム・ 久井コミュニティセンター

2 地区の問題点・課題

江木地区の問題点・課題について、「江木地区活性化計画」の内容に江木地域ビジョン策定会議及びワークショップ（意見交換会）での意見を加えて整理すると、次のとおりです。

表 地区の問題点・課題

区 分	地区の問題点・課題
地区の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の減少，高齢化の進行 ・若者，子どもの減少
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・「まかせんさい」や高齢者サロン・貯筋教室の運営の充実 ・一人暮らし高齢者の食生活の不安 ・自家用車を運転できなくなった時の生活不安 ・老後の生活不安（収入，介護等） ・健康状態（目が見えにくい，足が痛む等）の不安
若者の定住，子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が少ない ・若者の就業の場，遊ぶ場がない ・子ども相互，子どもと大人の交流機会の減少 ・学習塾，習いごとの場，子ども図書館がない ・学童保育時間が短い
農地の管理・農業	<ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣被害の増加 ・農業の担い手の減少（個人，農業生産法人） ・耕作放棄地の増加による地区環境の悪化 ・農業の担い手の高齢化により，農業の持続，農地管理の困難化 ・稲作では収入にならない
山林の管理・林業	<ul style="list-style-type: none"> ・山林の荒廃 ・樹木の立ち枯れの増加
観光・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内看板の未整備等，来訪客のもてなし体制の不備 ・久井稲生神社と周辺観光施設との連携不足
商店街・商業	<ul style="list-style-type: none"> ・商店が減り，商店街が寂しい（電灯が点かず暗い，空き家が多い等） ・商店の維持の困難化，食料品店の減少，なくなる恐れ
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の舗装が悪い ・公共交通機関が不便 ・医療機関が少ない ・入院施設がなく，老後の生活が不安 ・商店の減少，魅力ある商店がない ・空き家の増加，空き家の活用 ・空いている市営住宅の活用
地区活動・近隣関係	<ul style="list-style-type: none"> ・近所づきあいが希薄化 ・世代間，同世代の交流機会が少ない ・自主防災会の活動不足，避難訓練への参加者が少ないこと
行事・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人の行事等への参画が少ない ・地区行事への参加者の減少 ・祇園祭への来訪客の減少 ・担い手不足で，伝統行事（祭），地区行事の維持の困難化 ・地区全員でのスポーツや文化活動の場の不足 ・女性会，いきいきサロンのボランティアへの若い担い手の参加不足 ・行事が多過ぎること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・江木自治区のフェイスブックの周知不足 ・インターネット環境が悪い

3章 地域ビジョン

1 地区の将来像

本計画では、「江木地区活性化計画」策定時に掲げた地区の将来像を踏襲し、次のとおりとします。

<地区の将来像>

歴史文化に彩られ、交流が活発な「江木」

2 地区づくりの目標設定

(1) 目標設定

地区の将来像の実現に向け、次のとおり目標を設定します。

ア 自治区加入率

現状値	めざす方向	目標値	備考
95% (令和2年度)	増加	100% (令和7年度)	・現状値は町内会・自治会調べ

イ 新規事業数

現状値	めざす方向	目標値	備考
— (令和2年度)	増加	6事業 (令和3～7年度)	

ウ 他団体との連携事業数

現状値	めざす方向	目標値	備考
— (令和2年度)	増加	12事業 (令和3～7年度)	

エ 地区への移住者数

現状値	めざす方向	目標値	備考
0人 (令和2年度)	移住促進	35人 (令和3～7年度)	・毎年3世帯，7人の移住

オ 久井稲生神社への来訪客数

現状値	めざす方向	目標値	備考
16,000人 (令和元年度)	増加	18,000人 (令和7年度)	・5年間で2,000人の増加

注：初詣等の参拝客，裸祭り・祇園祭の来訪客の合計

(2) 人口の将来見通し

平成27(2015)年から令和2(2020)年の人口(住民基本台帳)の推移が継続した場合の人口を推計すると、地域ビジョン策定年次の令和2(2020)年から10年後の令和12(2030)年には572人になり、令和2(2020)年と比較して136人減少するものと見込まれます。年齢3区分別人口をみると、各年齢層ともに減少し、高齢化率は約58%になるものと見込まれます。

こうした状況に対して、総人口の減少はやむを得ないものの0～14歳人口が増加に転じることを目標として、本計画で掲げる「若者・子どもが住みやすい地区づくり」をはじめとする各種取組を推進します。その結果、毎年20歳代前半夫婦、30歳代前半の夫婦(子ども1人)、60歳代前半の夫婦それぞれ1組が、過去5年間の動向より増加するものとし、令和12(2030)年の総人口を約650人と設定します。

注：人口推計は、島根県中山間地域研究センターの人口予測プログラムを用いました。

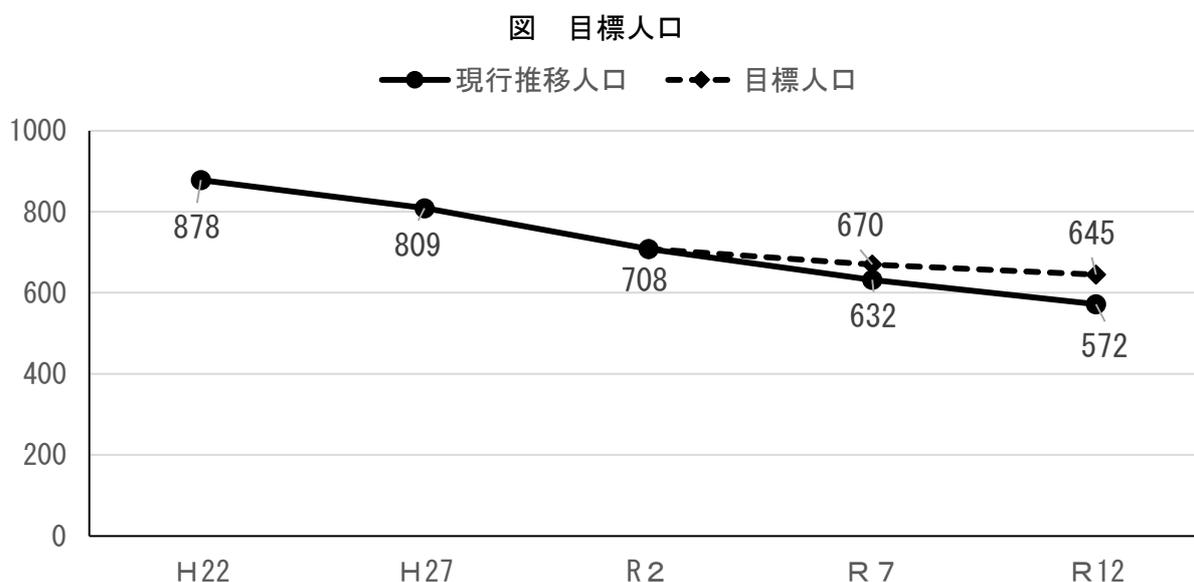


表 目標人口

区分	令和2(2020)年	令和7(2025)年	令和12(2030)年	令和12(2030)年 - 令和2(2020)年
0～14歳	51	51	42	△9
15～64歳	323	292	258	△65
65歳以上	334	328	345	11
合計	708	670	645	△63

注-1：過去5年間の推移と比較して、毎年20歳代前半の夫婦、30歳代前半の夫婦(子ども1人)、60歳代前半の夫婦がそれぞれ1組増加するものとした。

-2：出生率は、H27.4～R2.3までに出生した人口(0～4歳)をR2.3の20～39歳の女性人口で除した値。男性0.14、女性0.13。

-3：令和2(2020)年は3月31日現在の人口。

参考 現行推移の場合の将来人口

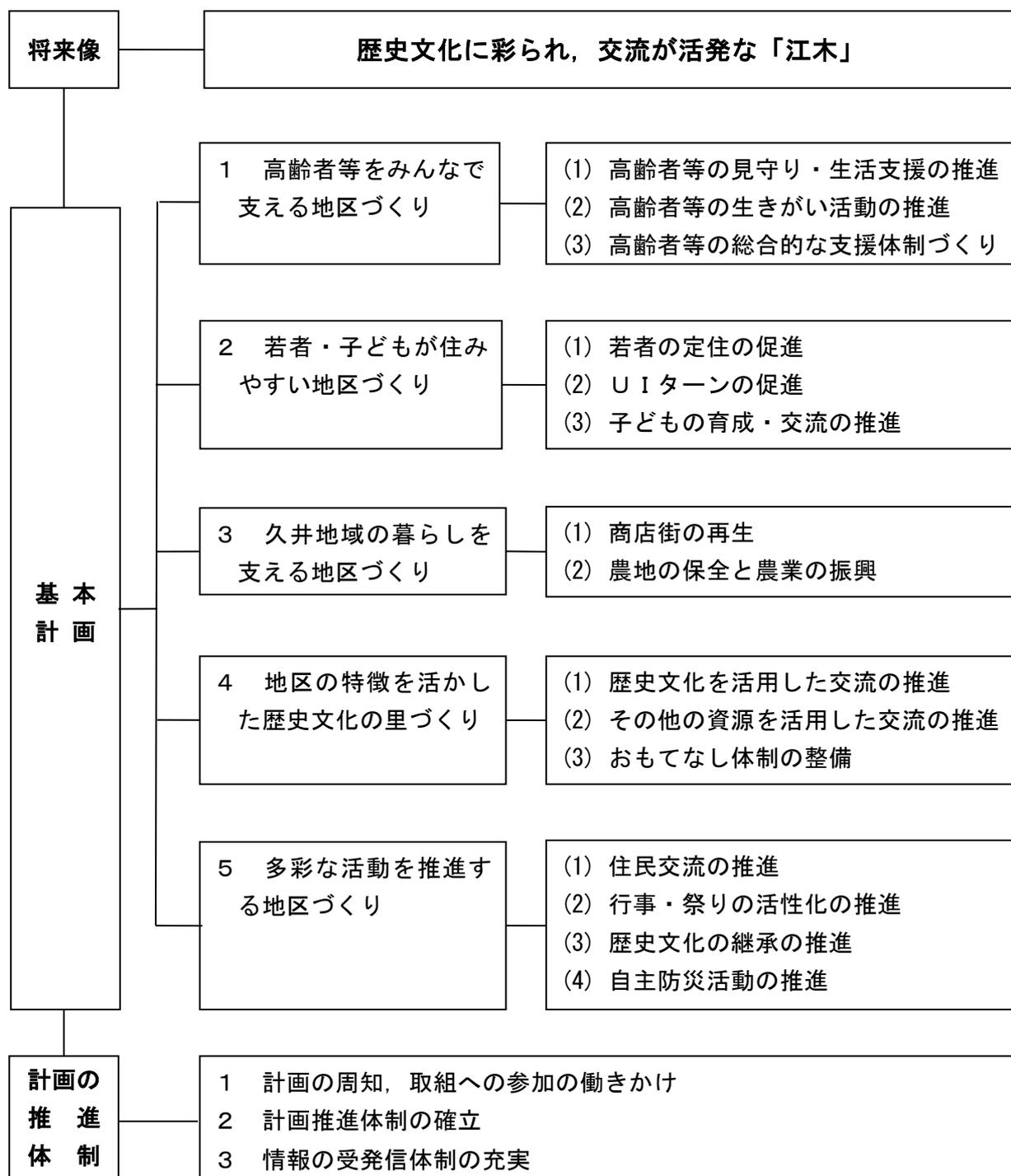
区分	令和2	令和7	令和12	令和12(2030)年

	(2020)年	(2025)年	(2030)年	—令和2(2020)年
0～14歳	51	43	25	△26
15～64歳	323	262	213	△110
65歳以上	334	327	334	0
合計	708	632	572	△136

3 地区づくりの体系

地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図 地区づくりの体系



4 地区づくりの基本計画

地区の将来像を踏まえて、地区づくりの基本計画として5つの柱と主な取組を掲げます。

なお、取組事項は、「江木地域活性化計画」の内容を踏まえるとともに、江木地域ビジョン策定会議及びワークショップ（意見交換会）などにおける意見のうち、江木自治区をはじめとする各種団体及び住民が取組主体になる事項をとりまとめました。

1 高齢者等をみんなで支える地区づくり

(1) 高齢者等の見守り・生活支援の推進

ア 見守り活動の充実

- ・見守りサポーターによる高齢者等の見守り・相談支援の充実
（月1回の見守りサポートリーダー会議などでの情報交換と適切な高齢者支援）
- ・近隣住民など複数の人で見守りする体制づくり

イ 「まかせんさい」活動の充実

- ・高齢者の困りごと支援を行っている「まかせんさい」活動の充実
（様々なニーズに対応できるように多様な人材の確保）

ウ 一人暮らし高齢者の食生活の支援

- ・配食サービス利用の働きかけ
- ・簡単レシピの配付
- ・男の料理教室の開催

エ 保健福祉・介護支援制度の周知

- ・認知症関連、保健福祉、介護などの支援制度の周知

(2) 高齢者等の生きがい活動の推進

- ・牛山いきいきサロン活動の充実
- ・貯筋教室などの健康づくり事業の推進による健康寿命の増進
- ・空き家を活用した高齢者等の集いの場（気軽にお茶を飲み、交流できる場）の整備
- ・元気な高齢者が収入を得られる場（野菜の直売、「まかせんさい」活動へ参加等）の提供

(3) 高齢者等の総合的な支援体制づくり

- ・自治区、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、いきいきサロン運営グループなどと三原市社会福祉協議会、高齢者相談支援センターのネットワーク化
- ・気になる高齢者等への効果的な支援体制づくり

2 若者・子どもが住みやすい地区づくり

(1) 若者の定住の促進

ア 就業の場の確保

- ・若者の就業の場の確保，就業しやすい環境づくり
- ・農家，農事組合法人と連携して，若者が就農できる環境づくり（就農希望者への農地の斡旋等）
- ・自然，歴史文化などの地区資源を活用した観光・交流の推進による就業の場の創出

イ その他の取組

- ・子どもに対して，親が地区へ居住し，近隣に就業の場を確保するよう働きかける機運づくり
- ・若者の出会い，交流の場づくりと婚活の支援
- ・江木及び下津の市営住宅の空き室へ若者の入居を促進するため，家賃引き下げの働きかけ

(2) U I ターンの促進

ア U I ターンの促進

- ・U I ターンを希望している若者が定住しやすい環境づくり
- ・U I ターン希望者への地区の案内，住宅及び仕事の紹介及びU I ターン者との交流会の開催
- ・自治区と民生委員・児童委員等が連携したU I ターン者に対する支援体制の一層の充実
- ・U I ターン者生活支援ハンドブックの作成・配布（自治区活動，近所づきあい，ゴミ出し，行事等）
- ・U I ターン移住者相互のネットワークづくり
- ・江木の魅力の広域的な発信（金融機関や医療機関に困らない環境）

イ 地区出身者との交流の推進

- ・地区出身者との交流を推進し，地区の行事・祭りへの参加の働きかけ
- ・U I ターン希望者に対する住宅の修繕，確保などの支援

ウ 空き家の活用

- ・空き家活用実行体制づくり
- ・空き家調査，空き家所有者の意向調査の実施
- ・空き家所有者に対する家の管理，家財の処分，空き家バンク登録などの支援
- ・空き家を活用する人への補助制度及び不動産業者・建築業者の紹介，家の掃除・改修などの支援

(3) 子どもの育成・交流の推進

ア ふるさと体験の提供

- ・ふるさと体験実行体制づくり
- ・ふるさと体験プログラムの作成
 - ・自然体験（ホタル学習等）
 - ・歴史文化体験（祇園踊り，盆踊り等）
 - ・産業体験（農林業等）
 - ・大人との交流
- ・ふるさと体験提供グループの確保，育成

イ 世代間（子どもと大人）交流の推進

- ・高齢者との交流（民話学習，昔遊び，民芸品づくり等）
- ・体操等のスポーツを通じての世代間交流
- ・地区行事における子どもと大人が交流する機会の確保

ウ 子育ての支援

- ・平日の下校後，土曜日における交流の場の確保
- ・学習塾などの子どもの習いごと環境の充実
- ・学童保育時間の延長の働きかけ

3 久井地域の暮らしを支える地区づくり

(1) 商店街の再生

ア 空き店舗の活用

- ・商店街（商栄会）と連携した空き店舗活用の推進
（空き店舗の利用可能性調査，チャレンジショップ等への活用）
- ・空き店舗を活用した若者の起業の支援
- ・新規商店の誘致（ジビエ料理店等）

イ 商店街の賑わいづくり

- ・住民に親しまれる環境づくり（商店街の愛称づくり，休息場所，ベンチの設置等）
- ・久井稲生神社と連携した商店街の活性化
（祭礼時における来訪者のもてなし，消費の促進）
- ・フリーマーケットなどの新規イベントの開催

ウ 商店街の特徴のある景観づくり

- ・久井稲生神社の門前町としての景観づくり（花の植栽，街路灯の整備等）
- ・神明デコの展示

(2) 農地の保全と農業の振興

ア 有害鳥獣対策

- ・地区を挙げてイノシシなどの有害鳥獣対策の強化

イ 担い手の確保

- ・農事組合法人による農地保全の取組に対する支援
- ・農事組合法人と連携し，地区外へ農業の担い手（若者）の募集，希望者の受け入れ

ウ 遊休農地の活用

- ・休耕田を活用し，都市住民向け貸し農園運営の検討

エ 農業の振興

- ・地元食材が消費できるように，農産物直売所設置の検討
- ・農産物及び加工品の直売を行う秋の収穫祭の開催

4 地区の特徴を活かした歴史文化の里づくり

(1) 歴史文化を活用した交流の推進

ア 牛馬市の歴史を紡ぐ久井牛山自然公園の整備・活用

- ・公園整備の体制づくり
- ・ツゲの木を保全するためのオーナー制度の導入
- ・花見の名所としての環境整備（桜の保全，植替え，紅葉の植栽等）
- ・住民交流広場，子ども広場（遊具配置）の整備
- ・冒険遊び場の開催
- ・牛馬市の歴史を伝えるために黒牛の飼育，子どもがふれあえる場づくり

イ 久井稲生神社の活用

(ア) 久井稲生神社のPRの強化

- ・久井稲生神社の歴史及び祭礼の広域的な情報発信
- ・江木地区を象徴する久井稲生神社のライトアップの充実（レーザー光線等の活用）
- ・久井稲生神社の案内看板，案内冊子の作成

(イ) 久井稲生神社の祭礼の活性化

- ・祇園祭へ参加する団体・踊り手の維持・充実
- ・祇園祭後の衣装の試着，獅子舞体験など，来訪者に対するサービスの充実
- ・県内唯一の裸祭りの広域的なPRの強化，全国から参加者の募集，来訪客の誘客の促進
- ・祭礼における写真コンテストの開催
- ・久井稲生神社神楽殿を活用した神楽大会の開催

(2) その他の資源を活用した交流の推進

- ・ホテル観賞場所の整備及びホテル祭りの開催
- ・江木地区の歴史文化資源（牛馬市の歴史及び久井稲生神社）と宇根山一帯の観光資源との連携による広域的な観光・交流の推進
- ・外国人来訪者などを対象とした瑞泉寺での寺体験（座禅，写経，着付け，精進料理等）の提供

(3) おもてなし体制の整備

ア 広域への情報発信の強化

- ・久井コミュニティセンターを活用した広域への情報発信（ホームページ，フェイスブック等）
- ・インターネット（グーグル）上で，地区の魅力スポットの紹介
- ・イベントカレンダーの作成・発信
- ・江木地区のゆるキャラ（ウッシー）を作成し，地区のPRへ活用

イ 来訪者への案内体制づくり」

- ・久井コミュニティセンターを活用した久井地域の案内体制づくり
（観光案内所の設置，観光案内マップの作成等）
- ・久井観光コースづくり（久井稻生神社と宇根山一帯の観光コース等）

ウ 来訪者に対するもてなし環境の整備

- ・宿泊施設の整備（民泊等）
- ・商店街の空き家を活用したカフェ，特産品販売施設の整備

5 多彩な活動を推進する地区づくり

(1) 住民交流の推進

- ・商店街へ住民が気軽に集えるカフェづくり
 - ・飲み物及び軽食の提供，囲碁・麻雀などの場，地元農産物の販売，リサイクルバザー等のイベント開催
 - ・子どもから大人まで気軽に交流できる場
- ・顔見知りを作る，増やす取組の推進（飲み会，バーベキュー，パブリックビューイング等）
- ・青年団の復活による若者交流の推進と地区の担い手の育成
- ・地区行事への若者の参加の働きかけ
- ・高齢者と子ども・若者などとの世代間交流の推進
- ・趣味教養活動ができる場所の確保

(2) 行事・祭りの活性化の推進

ア 既存の祭りの充実

- ・年間行事・祭りカレンダーの作成，行事・祭りの一体的なPRによる参加者の確保
- ・行事・祭りへ近隣住民が誘い合って参加する機運づくり
- ・イベントくじPRの強化による参加者の確保

イ 新規行事の開催

- ・子どもが興味を持つゲーム性の高いイベントの開催により，子ども・保護者の参加の促進
- ・江木地区運動会の開催，山登りの復活
- ・関心のある人が企画・実行する実行委員会方式でのイベント開催の検討

(3) 歴史文化の継承の推進

- ・祇園祭の踊り子の確保（地区出身者の参加等）
- ・江木地区の歴史文化の継承，伝統行事の維持，充実を図るために久井稲生神社での勉強会の開催
- ・勉強会への参加を通じて，来訪客に地区の魅力を紹介できる人材の育成

(4) 自主防災活動の推進

- ・専門的な防災知識を持つ人材の育成（防災士取得支援，各種講演会への派遣等）
- ・災害時における情報の収集・伝達，警戒避難体制の充実（特に，要支援者避難支援体制の確立）
- ・防災備品・機材の計画的な備蓄
- ・久井の市コミュニティホームの避難所運営マニュアルづくりと運営人材の確保
- ・防災及び災害時避難意識の向上と防災・避難訓練の充実
- ・家庭における災害時に向けた準備に係る意識啓発（地震対策，避難袋の準備等）

5 計画の推進体制

(1) 計画の周知，取組への参加の働きかけ

各種団体の会合などで「江木地域ビジョン」の周知を行い，住民一人ひとりの地区づくりへの当事者意識を醸成するとともに，地区づくり活動への参加を働きかけます。

(2) 計画推進体制の確立

「江木地域ビジョン」を実行する体制を次のように確立し，各種事業の実施に取り組みます。

ア 幅広い参加と持続的に活動できる体制の確立

- ・「江木地域ビジョン」を実行する組織として，「(仮称) 江木地域ビジョン実行委員会」を設立するとともに専門部会を設置し，幅広い人材の参加を働きかけます。
- ・「江木地域ビジョン実行委員会(仮称)」へ女性，若者の参加を促進するため，同世代の横の結びつき，若い世代の多い消防団，保護者会及びPTAなどを活用した参加の働きかけ，会議の開催曜日・時刻への配慮などによる参加しやすい環境づくりに取り組みます。
- ・「江木地域ビジョン実行委員会(仮称)」は，江木自治区の専門部及び地区内の団体と連携して「江木地域ビジョン」の実行に取り組みます。
- ・地区の人材，事業所などの得意分野を整理したリストを作成し，地区づくりに適材適所で協力してもらう体制を確立します。
- ・講習会・研修会などへの参加，先進地視察の実施などによる人材育成に取り組みます。

イ 地区外の個人，団体との連携の強化

- ・三原市ボランティア・市民活動サポートセンターと連携し，地区づくりへの助言，専門的人材の紹介・派遣などの支援を受け，地区づくり活動の活性化を図ります。
- ・三原市中山間地域の共通課題（高齢者等の生活支援，UIターン促進，観光・交流，情報発信等）へ効果的に取り組むため，他地区との連携を強化します。
- ・地区外の団体との連携を強化して地区づくりへの応援を受けるとともに，地区出身者，都市住民，大学生などに対して，地区行事への参加や地区づくりへの応援を働きかけます。

ウ 活動財源の確保

- ・活動資金を確保するため，収益事業の導入を積極的に検討するほか，国，県，市などの支援制度の活用を図ります。
- ・収益事業の受け皿となるNPO法人，住民出資の地区づくり会社などの設立に取り組みます。

(3) 情報の受発信体制の充実

ア 地区内への情報の受発信

- ・地区情報が住民一人ひとりに周知徹底できるように、回覧板による情報周知を徹底するとともに、地区便りの発行に取り組みます。
- ・若者世帯に対しては、江木地区のホームページ、フェイスブック、SNSを活用した情報の受発信に取り組みます。

イ 地区外への情報の受発信

- ・今後も江木地区のフェイスブックなどを活用し、地区出身者、都市住民、大学生などに対して地区の魅力や活動（年間行事・祭りカレンダー）、空き家情報などの発信の充実に取り組みます。また、海外に向けての情報発信（外国語表記）を検討します。
- ・各種団体、個人のホームページ、フェイスブック、SNSなどを通じて、地区外の知人・友人などへ地区行事・イベントなどの情報発信を働きかけます。

ウ 人材の確保・育成

- ・江木地区のホームページ、フェイスブックなどを管理、活用できる人材を確保・育成し、タイムリーな情報の受発信体制を強化します。